



議会だより



総合防災訓練

平成24年9月定例会

- ◆あらまし・議案可決状況 2
- ◆決算可決状況 3
- ◆予算決算審査特別委員会 4～5
- ◆決算の意見 6
- ◆議案審議・請願陳情・委員会提出議案 . . 7
- ◆一般質問 8人が登壇 8～15
- ◆委員会レポート 16～17
- ◆町民の声 18



町の木「ナナカマド」情熱の朱
10月20日の誕生花です。

福島県 耶麻郡 猪苗代町 字城南 100番地

<http://www.town.inawashiro.fukushima.jp/>

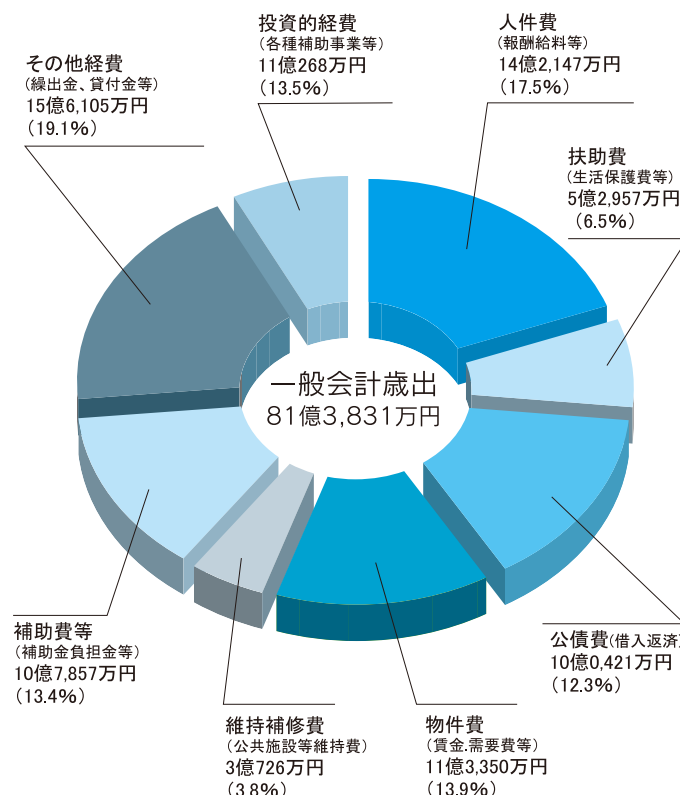
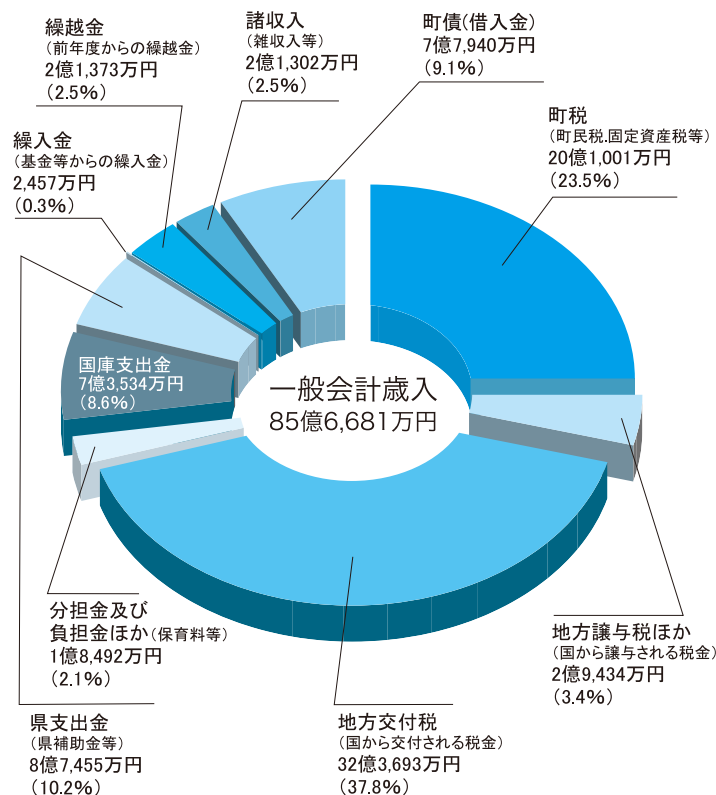
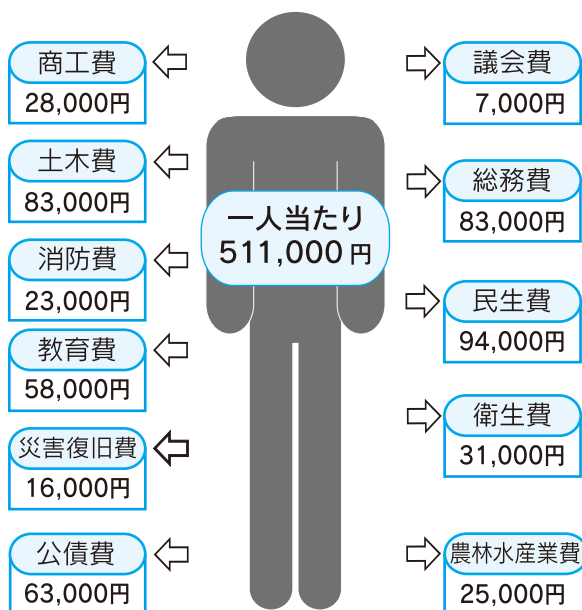


9月定例会

「町の財務」議会がチェック!

平成23年度の決算を認定

町民(15,931人)一人当たりの
主な使いみち(一般会計)



9月定例会は、9月3日から13日までの9日間にわたり開かれました。
《町から提出された議案等》

- ・ 23年度の決算認定 3件
- ・ 24年度補正予算 13件
- ・ 条例改正 10件
- ・ 財産取得 2件
- ・ 人事案件 5件

提出された議案等について審議の結果、すべて原案どおり認定・可決しました。
一般質問は8名の議員により2日間にわたり行われました。
また、委員会提出議案が提出され、全会一致で可決となりました。

あらまし

平成23年度 会計別決算額

会 計		歳入決算額	歳出決算額
一 般 会 計		85億6,681万円	81億3,831万円
特 別 会 計	国 民 健 康 保 険	19億0,200万円	17億9,477万円
	後 期 高 齢 者 医 療	1億5,192万円	1億5,161万円
	介 護 保 険	12億8,918万円	12億8,105万円
	下 水 道 事 業	7億3,642万円	7億2,071万円
	特定環境保全下水道事業	2億2,303万円	2億1,905万円
	農業集落排水事業	3億2,633万円	3億0,640万円
	簡 易 水 道 事 業	9,508万円	9,269万円
	病院会計	収益的収支 5,729万円 資本的収支 2,889万円	6,133万円 1億4,326万円
水 道 会 計	収益的収支	3億0,822万円	2億8,800万円
	資本的収支	735万円	8,762万円

議 案 内 容 と 可 決 状 況

	件 名	可決状況
23年度決算	平成23年度猪苗代町歳入歳出決算の認定	賛成全員
	平成23年度猪苗代町病院事業会計決算の認定	賛成全員
	平成23年度猪苗代町水道事業会計決算の認定	賛成全員
24年度予算の補正	平成24年度一般会計補正予算(第3号)	賛成全員
	平成24年度猪苗代地区財産区特別会計補正予算(第1号)	賛成全員
	平成24年度猪苗代地区財産区特別会計補正予算(第1号)	賛成全員
	平成24年度長瀬地区財産区特別会計補正予算(第1号)	賛成全員
	平成24年度吾妻地区財産区特別会計補正予算(第1号)	賛成全員
	平成24年度国民健康保険特別会計補正予算(第1号)	賛成全員
	平成24年度後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)	賛成全員
	平成24年度介護保険特別会計補正予算(第1号)	賛成全員
	平成24年度下水道事業特別会計補正予算(第1号)	賛成全員
	平成24年度特定環境保全下水道事業特別会計補正予算(第1号)	賛成全員
	平成24年度農業集落排水事業特別会計補正予算(第1号)	賛成全員
	平成24年度簡易水道事業特別会計補正予算(第1号)	賛成全員
	平成24年度水道事業会計補正予算(第1号)	賛成全員
条例改正	職員の給与に関する条例の一部を改正する条例	賛成全員
	職員等の旅費に関する条例の一部を改正する条例	賛成全員
	特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例	賛成全員
	町税特別措置条例の一部を改正する条例	賛成全員
	国民健康保険条例の一部を改正する条例	賛成全員
	猪苗代町病院事業条例の一部を改正する条例	賛成全員
	猪苗代町都市公園条例の一部を改正する条例	賛成全員
	猪苗代町南部地区計画の区域内における建築物の制限に関する条例の一部を改正する条例	賛成全員
	町水道事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例	賛成全員
	町立学校施設の使用に関する条例の一部を改正する条例	賛成全員
取得財産	財産の取得について(除雪ドーザー 11t 級車輪式)	賛成全員
	財産の取得について(運動公園陸上競技場備品)	賛成全員
人事案件	町教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて(2件)	賛成全員
	町固定資産評価審査委員会委員の選任につき同意を求めることについて(3件)	賛成全員

23年度決算

一般会計

歳入

《町税》

問 固定資産税の滞納繰越、不納欠損の件数は。

答 固定資産税の不納欠損の件数は688件。500万円以上の大きいものは3件です。

問 対前年比として明らかに震災の影響が見られるものは。

答 町民税の個人分では平成22年と平成23年を比べても大きく下がっていない。法人分では、平成22年に若干持ち直した部分があったが、震災の影響で納入されなかったということで、影響は法人分が大きかったと思われる。

問 固定資産税について対前年比は。徴収に関してはどうような状況なのか。

答 固定資産税については、滞納繰越分が前年度より1億円以上の増収となっている。

平成22年度分が震災の影響で徴収出来なかったものが、平成23年に繰り延べられたと分析している。

インターネット公売については、平成22年度では約2千万円であったが、平成23年度では若干減少し1,700万円程度の落札で、ほとんどを固定資産税に充当しました。

問 軽自動車税の収入未済額の要因は。

答 経済の低迷が大きな要因ではないかと思っている。会津若松市では、インターネット公売で動産も処分しており、今後動産の差し押さえも考えていきたい。特に軽自動車はインターネット公売で落札されやすいといわれている。

《使用料及び手数料》

問 住宅使用料の収入未済額の要因は。

答 滞納については、5月末で町営住宅34名、町設住宅では3名です。

訪問によりほとんどの方から納付誓約書をいただき、計画的に納入いただいています。

問 教育使用料の納入状況は。

答 幼稚園の保育料は23世帯が滞納しています。前年からみると7%ほど改善されている。卒園後も当然督促を行い、その後催告を行い、年1回以上の納入のお願いをしています。

《雑収入》

問 奨学資金貸付金元利収入について。年度別件数、金額は。

答 昭和56年分1名、昭和63年分1名、平成7年分1名、平成8年分1名、平成15年分1名、平成16年分2名、平成22年分1名の計8名で、合

計122万2千円となっている。

未納については、最近納入された方もいるので鋭意努力して徴収していきたい。

歳出

《総務費》

問 市町村生活バス運行委託料について、昨年度対比は。

答 平成22年度と比べ、平成23年度は389万4千円の増となっており、赤字分の増です。

過疎地域に指定されたことにより、国・県の補助率が上がったが、これも平成27年で打ち切られるため、今後路線バスのダイヤを維持し、バスを小型化するなど事業者と協議し検討していきたい。

《民生費》

問 工事請負費が執行されなかったのはなぜか。

答 老人福祉センターのトイレ改修を予定していたが、良い

改修方法が見つからなかったため、執行する機会がなくなっていました。

《商工費》

問 備品購入費の内容は。

答 緊急雇用基金事業の保育所の支援拡大事業により、避難児童のための備品購入で、保育所の椅子とテーブルを購入しました。

《土木費》

問 亀ヶ城公園集いの広場整備工事1,831万円の内容は。

答 集いの広場は、旧半坂集会所があった場所に整備してきたが、これで完成となった。集いの広場からお城山に抜ける道は順次整備中である。

問 補償金、借家人補償契約153万9,658円の内容は。

答 猪苗代中央線の用地買収の中で建物の所有者と、そこを借りている借家人がいた。その借家人1世帯の移転の経費を補償するものです。

24年度補正予算

一般会計

歳入

《国庫支出金》

問 社会資本整備総合交付金1億400万円の減額について。

答 平成24年度の単年度であるさと歴史館を整備する予定でしたが、平成24年・平成25年度の2カ年事業として協議が整ったことから減額したものです。

問 産地生産力強化総合支援事業補助金247万5千円の減額について。

答 東日本大震災以後、県の財政上の問題で、県単の補助については、カットあるいは不採択となる説明を受けている。側条施肥田植え機2台分が不採択となった分の減額です。



生ゴミ保管庫

歳出

《総務費》

問 企画費の120万円の補助金はソーラー関係ということだが何件分か。

答 当初10件みていたが、7月から電力の買取り制度が始まり、申請を待っていたいている方が、20名ほどいるので、20名分増額補正しました。

《衛生費》

問 うつくしいまちづくり事業費の増額の理由は。

答 資源物保管庫補助金と生ごみ回収用保管庫補助金で、内野と東館で15万円×2機で30万円。生ごみ保管庫は新町イの1機で6万円です。

問 採草地の放射性物質低減化委託料の内容は。

答 対象農家数が6戸で、面積43ヘクタールで、場所は翁島の磐根です。草を刈り取り、セシウムの吸着剤といわれているゼオライトを散布し、ロータリーをかけ堆肥を散布する。その後、ロータリー、播種、除草剤もかける。それらをしゃくなげ酪農業協同組合に委託しました。1ヘクタールあたり100万円で、4,300万円の予定です。

問 民間採草地以外の町営にについてはどうなのか。

答 町営牧場に関しては除染の方法を現在、来年に向けて検討中です。

《商工費》

問 1,800万円の風評被害対策費、猪苗代町クーポン券の時期はいつ頃か。

答 11月、12月で周知し、1月の連休明けから3月25日までを予定している。

特定環境保全下水道事業特別会計

問 1,100万円の減額について。

答 志田浜地区の特定環境保全下水道の都沢地区の埋設工事を予定していたが、補助金が減額になったため、都沢地区については、次年度以降要望をしていきたい。

主な歳出補正の内容

総務費

庁舎地中熱利用空調システム導入にかかる熱応答試験業務委託料及び庁舎照明設備の改修工事にかかる工事請負費増額。

民生費

18歳以下の県民の医療費無料化事業にかかる通信運搬費、委託料、扶助費、繰出金を増額。
小平湧区への児童公園遊具設置事業補助金を増額。

農林水産業費

東日本大震災農業生産対策事業により実施する民間採草地の放射性物質低減化対策にかかる委託料を増額。
林業振興費は民間企業により「琵琶沢原森林公園」への桜の植樹に伴い老朽化したテニスコートを撤去するため工事請負費を増額。

商工費

県のふくしまっ子事業を補完し誘客を図るため、いなわしろ体験活動補助事業にかかる委託料を増額。
冬期の誘客を図るため猪苗代町クーポン券を発行する「ゆきいち券」発行事業への補助金を増額。

土木費

ふるさと歴史館建設工事を2カ年事業としたことにより、工事完了検査等にかかる手数料、工事監督業務等にかかる委託料及び工事請負費を減額。

平成23年度一般会計決算の意見

【歳 出】

歳出においては、義務的経費の人件費が前年度より増となったが、緊急雇用対策業や除染事業などによる臨時的な雇用創出の場ともなっている。投資的経費は、鶴峰住宅建設事業、さくらこども園整備事業、都市計画道路猪苗代中央線整備事業などの新規事業の着手に伴い、全体で5億6,234万7千円の増となった。

【町 債】

町債は、交付税制度の肩代わりとなる臨時財政対策債の発行額が前年度より抑制されたものの、全体の32.8%を占めている。

【基 金】

基金では、震災復興基金3億7,168万7千円が新たに設置され、財政調整基金も1億5,118万7千円増額された。今後、放射性物質対策事業、風評被害対策事業、震災復興事業など緊急かつ重要な事業や、過疎計画に基づく地域振興事業の執行が求められている。

予算の執行状況は、有効適正であることは認めるが、長期的健全財政を確保する観点からも、引き続き簡素で効率的な財政運営が図られるよう、今後とも努力されることを望み決算審査の意見とする。

監査委員 折 笠 光 雄
監査委員 金 本 久美子

平成23年度一般会計及び各特別会計並びに基金の運用状況について、審査に付された各会計の決算書はいずれも関係法令等に基づいて作成され、会計経理は正確であり、予算の執行についても有効適正に執行されているものと認められた。

【決算の規模】

平成23年度の決算規模は、一般会計と特別会計を合わせた決算額で、歳入総額133億3,400万円、前年度比13.4%の増、歳出総額127億4,667万円、前年度比12.2%の増で、災害復旧・復興、放射能対策事業などの執行により、歳入歳出とも前年度を大幅に上回る決算となった。

【歳 入】

一般会計の歳入については、固定資産税の滞納繰越分収入額が前年度より1億935万5千円、200.3%の大幅増となったことにより、町税全体で前年度より1億4,018万6千円の収入増となった。自主財源は、前年度に比べ1億3,654万6千円、5.4%の増となったが、一方で依存財源は国庫支出金、県支出金や町債などの収入増などにより9億5,094万円、19.1%の増となったため、結果として構成比は前年度と変わらなかった。

主な質疑

条例の一部を改正する条例

○職員給与に関する条例

【問】通勤手当の金額が改定された根拠を伺う。
【答】県の通勤手当が諸経済にマッチするよう改正されたため、準拠し改正するものです。

○特別職の職員で非常勤ものの報酬及び費用弁償等に関する条例

【問】小作料協議会がなぜ廃止となったのか。

【答】今般の農地法改正により小作料制度が廃止され、それに伴い協議会がなくなったので条例から削除するものです。

○猪苗代町病院事業条例

【問】改定されるにあたり結果的にどのようなになるか。

【答】地域主権一括法に伴い、公益企業法の改正があり、法定積立金の積立義務が廃止になり、前に法律で規制されていた部分について条例化したということです。
【問】改正により町民の負担は増えないのか。

【答】今まで法で定められていたものを条例で定めたということ、新たに負担が増えるというものではありません。

○財産の取得について (運動公園陸上競技場備品)

【問】陸上競技場の備品がかなり多くあるがどこに保管するのか。

【答】三種の公認を取るということでハードルやマット等かなりの量になるが、陸上競技場の西側の北に備品庫を設置し、そこに保管する。
【問】今回で備品は全て整ったのか。

【答】三種公認を受けられる基本となる備品はそろいました。今後、大きな大会の誘致となれば写真判定機等の大きな備品が必要になるかと思っています。

同意を求めることについて

○町固定資産評価審査委員会の委員の選任について

【問】どういう基準で選任されたか伺う。

【答】町内に住所を持っている方の中から、ふさわしい方を長が意向確認し選任をしている。

あなたの声を審議しました！

区 分	件 名	付託委員会	審議結果
	請願者・陳情者の氏名		
陳 情	公共施設等に係るLPガスの使用に関する陳情 福島県エルピーガス協会 会津支部猪苗代方部会 会長 鈴木 明	総 務	採 択
陳 情	町道猪中線のガードパイプ修繕について 六角区長 佐藤 清一郎	経済建設	採 択
陳 情	町道樋ノ口小田線に関する陳情について 小田区長 渡部 正信	経済建設	採 択
陳 情	町道小田山根線に関する陳情について 小田区長 渡部 正信	経済建設	採 択

9月定例会で審議された「請願・陳情」の結果は次のとおりです。

【意見書の提出】

○地球温暖化対策に関する「地方財源を確保・充実する仕組み」の構築を求める意見書の提出について。

(提出者) 総務常任委員会

賛成全員

可決！

○会津地域への自衛隊駐屯地誘致に関する意見書の提出について。

(提出者) 総務常任委員会

賛成多数

可決！

【各種委員の同意】

任期満了につき、次の方々を選任することについて、議員全員同意しました。

教育委員

土屋 重憲 氏(壺 下)
浅井 紘子 氏(新 町)

固定資産評価審査委員

氏田 勝氏(上ノ上)
鈴木 輝男 氏(翁島駅前)
長澤 一夫 氏(川 桁)



渡辺 真一郎 議員

Q. 22～23年度で税込1億円近い不納欠損、集金体制の見直しは。

A. 各課の集金業務の一本化を検討する。

不納欠損について

【渡辺】22～23年度の決算で1億円に近い欠損が出た。欠損を出さない努力は。

【答弁】バブル期の固定資産税に係る部分が殆どで当町の特殊性であり苦慮している。

【渡辺】不納欠損を決定する過程は。

【答弁】督促、催告、臨戸徴収等を実施し財産等の調査や実態把握に努め各々の法律に基づいて決裁を得て不納欠損の処理を行う。決裁は町長が行う。

【渡辺】徴収側のミスによる不納欠損はなかったか。

【答弁】事務の引き継ぎが完全でなく結果として時効となった事例が過去にあった。

【渡辺】各課で行っている集金業務の一本化が効率的ではないか、また、集金業務は公務員が行うより民間業者を活用してはどうか。

【答弁】効率的、効果的な体制を整備し徴収一本化に向けて検討する。外注の導入も今後の課題である。

企業誘致の現状は

【渡辺】国は県に工場立地を支援すると明言したが町の誘致状況は。

【答弁】現時点での問合せは無い。五百町地区を適地と選定しオーダーメイド型で対応したが事業者負担が大きくなり企業からの問合せはありません。

【渡辺】工場誘致のため基盤整備事業となっている農振地域の見直しを前倒しできないか。

【答弁】具体的な案件がなければ農用地域からの先行除外はしない。変更要件を満たせば随時対応する。

【渡辺】人口減少に拘わらず、住居用の用途地域が多い。見直しが必要ではないか。

【答弁】用途地域内の土地利用に余裕があるため現時点で見直しは考えない。状況の変化により必要が生じれば検討する。

児童の交通費補助について

【渡辺】学校の指導でバス通学しているが、補助金無支給の生徒数は把握しているか。

後藤 公男 議員

Q. スポーツ振興の進め方は。

A. 安全な町作り、町民の体力保持の為に、体育施設の改修を進めてまいります。

【後藤】スポーツ振興宣言の町を制定したが、具体的に計画を実行したことは何か。また、成果はどのようなものか。

【答弁】スポーツ振興の町にふさわしい体育施設の改修を行い、風評被害を払拭するために、安全なまちづくり、町民の体力を保持するための施設の整備を進めております。

又、体育協会加盟団体やカメラリナスポーツクラブ、スポーツ少年団等へ活動費の助成を行い、その育成に努めて参りました。

【後藤】総合型地域スポーツクラブ等で、町が主体となった組織づくりは考えられないか。

【答弁】町のスポーツ推進委員やカメラリナスポーツクラブなどの活用を図り、全体としての体制づくりに取り組んでいくことが重要かつ必要であると考えております。

【後藤】ゼビオ㈱が志田浜地区の土地を取得したことについて、町とどのような話し合いがあり、今後どのような連携ができるのか。

【答弁】今のところ正式な協議はありませんが、林間学校、マリンスポーツ、青少年育成事業や合宿等の誘致、



改修の進む陸上競技場

猪苗代湖の環境保全活動などの事業がより広範に行われることが期待されますので、今後、積極的に連携を図りたいと考えております。

歴史的な資源を活かしたまちづくりを、どう進めるか。

【後藤】磐椅神社への町道整備は。

【答弁】町道堤町土津神社線は底地が土地改良区の堰管理道路と共用されており、幅員が狭く退避所案内看板の設置以外、拡幅等の整備計画はございません。

【後藤】会津管内市町村との連携したPR活動などの施策は。

【答弁】八重の桜ゆかりの地マップ（仮称）の中に本町の観光施設について掲載

【答弁】学校の指導で小学校72名、学校の指導によらないバス通学者は小学校42名。中学校5名である。

【渡辺】交通費の一部補助について議論したことはあるか。また、現状のままで良いと考えるか。

【答弁】検討はしたが残念ながら規定の距離数に達しない方は無支給とした。

今後は他の市町村の情報や学校の適正配置と併せ公平に修学できる環境を整え前向きに検討する。



県道沿いで建築に適している農振地域

することにより、広く情報発信してまいります。また、極上の会津プロジェクト事業と連携しながら、磐梯山エリアのセールスプロモーションを実施してまいります。

【後藤】日本一の連歌師である猪苗代兼載にちなみ、俳句などを学校の授業に取り組めないか。

【答弁】俳句や短歌については履修科目で実施しておりますので、総合学習や部活動で取り組み可能かと思われまます。学校や町全体で親しむ機会を設けることは、大変意義あるものと考えます。



望まれる 町道拡幅

【その他の質問】

野口英世アフリカ賞について。
野口英世記念医学賞の授賞式について。



佐藤 英一郎 議員

Q. 財産区有林・共有林における分収契約の状況は。

A. 公社造林は昨年7月契約変更し、町との分収契約の変更はない。

分収契約の状況について

【佐藤】福島県林業公社との変更契約は公社の問題であり、地権者に何の責任もないのでは。

【答弁】昨年7月、契約50件について、土地所有者4割・造林者6割であったものを、やむなく2割・8割に変更となる契約に応じたが、仮に公社が解散となると、その後の管理を誰が出来るのかということになり、やむなく変更契約に応じたもの。

【佐藤】猪苗代町との契約状況は。契約途中で解約しなければならぬ事態を想定した条項が入っているか。

【答弁】7地区で契約締結しており、分収割合は土地所有者4割・造林者6割です。途中解約は規定されていないので、その都度協議をしながら対応してきた。今後、先行事例など参考にして追加的な協定を結ぶなど対応していきたい。

【佐藤】分収契約の見直しに伴う影響・課題は。また、定期的な監視・巡回が必要ではないのか。

【答弁】分収益が減ると後継者が育たな

くなり、森林の公益的機能が失われ、良好な森林状態を保てなくなるために管理する団体機関等が必要となる。更にいかに後継者を育ててゆくかが大きな課題である。定期的な巡回については、土地所有と一緒に becoming 契約山林を確認しておくことは必要と思うので、今後対応させて頂きたい。

鳥獣被害の実態について

【佐藤】被害と対策の現状は。

【答弁】現在ニホンザル・ツキノワグマ・イノシシ・ハクビシン・カワウによる被害が発生しており日本鹿も確認されている。被害額は、8月末の報告で5千212万8千円、ハクビシンについては被害を把握していない。対策としては、電波発信機による位置情報など出没情報の提供、受信機の貸し出し、花火・銃器での追い払い、発光装置・電気柵の設置補助のほか、今年から集落の協力が得られるのであれば、ニホンザルの個体数調整も実施する事とした。

【佐藤】個体数調整については地区頼みでなく町がまとめて処理すべきと思うが。

【答弁】色々な条件がでくると考えられるが、そのなかで町がまとめて処理することが条件的に一番良いとなるのであれば、来年に向け検討したい。

道徳教育・環境教育の現状について

【佐藤】歴史と先人に学ぶ教育について
【答弁】教育委員会で編集し学校備え付けの町の歴史・地理・自然・風土の基礎的理解を促すための副読本があり、主に社会科の「郷土学習」などで利用されている。

【佐藤】会津には歴史・先人に学ぶべき見本となる什の掟があるが、なんらかのかたちで取り組むべきでは。
【答弁】非常に会津の心が結集された大きなものだと思っているので、本町の学校教育においても色々なところで引用している。これまでも猪苗代のこどもたちのための6箇条を作っている。両方並行して考えていきたい。

【その他の質問】

環境教育（自然）について。

五十嵐 ミエ子 議員

Q. 「道の駅」の設置場所と運営方法は。

A. 運営の母体となる組織を立ち上げ、体制づくりを急ぐ。

道の駅の特産品の産出と運営方法は

【五十嵐】特産品はどのようにして産出するのか。

【答弁】町には笹だんごや揚げまんじゅう、どらやき、洋菓子等の特産品があり、農産物では数多くの生産品があり良いものがありますが、年間を通して安定的に供給するには十分ではない産品もあります。今後、「道の駅」に出品を希望される生産者を募りながら、運営の母体となります組織を立ち上げ検討いたします。

【五十嵐】運営方法はどのようにするのか。

【答弁】公共で管理・運営する「公設公営」方式と、公共で施設を整備し、民間が管理・運営する「公設民営」方式、民間が整備し、管理・運営を行う「民設民営」方式があります。今後、それぞれの管理・運営形態を比較検討し、最も適した管理・運営体制を決定することになります。

【五十嵐】道の駅の設置場所を検討すべきではないか。

【答弁】昨年から道の駅の整備検討委員会、検討部会を立ち上げながら検討してまいりました。町民の各層の方からご意見を頂いて現在の場所を予定地と致しました。農地は農地として将来的に有効活用すべきものと考えます。しかし、地域農業の活性化等を踏まえ農地以外としての有効活用も検討すべきものとも考えております。

川西いごも園について

【五十嵐】当初計画の場所は町の中心部であることから、旧役場跡地とすべきと思うが考えを伺う。

【答弁】町中心部が理想であることと、町有地の有効活用を図るべく、旧役場跡地に計画いたしました。整備条件として、十分な敷地が確保できること、施設までのアクセスの利便性、道路等のインフラの整備状況やこども園にふさわしい周辺環境など検討した結果、現計画地を予定地と致しました。

デマンド乗合タクシーの利用について

【五十嵐】利用する地域を限定するのではなく、町内どこに住んでいても利用できるようにと思うが町の考えを伺う。



新設「道の駅」計画地付近

【答弁】既存のバス・鉄道事業者等の営業を圧迫することのないよう福島運輸支局からの指導によるもので、運行対象地域を拡大することはできない。今後、関係機関と協議し問題点が整理されれば、その後、猪苗代町地域公共交通会議で決定をいただき、次年度より利用地域を一部拡大したいと考えております。



佐瀬 真 議員

Q. 現在進行中の川西こども園について。
A. 必要な面積と利便性を考慮して決定した。

未利用地の活用とこども園

【佐瀬】町内に未利用の空き地が多く存在するが今後の活用は。

【答弁】普通財産の土地については払い下げも含めその処分を考えたい。

【答弁】行政財産の旧役場の土地に関しては、新たな開発計画の為に工期延長の申請をとり続けている。

【佐瀬】その旧役場の土地の利用計画から駅前開発の一環として会津バス跡地、そして今回西側へ計画が移動した川西こども園、候補地の変更の決定の経緯は。

【答弁】必要な面積が確保出来ない事から駅前に計画を変更したが、会津バス跡地は隣接している道路の交通量が多い他、用地が狭い等から現在の計画地へ変更した。

【佐瀬】逼迫した財政、これからの少子化問題の中、新たな土地を買ってまで理想に近いこども園を作らなければならぬのか。

【答弁】子育て支援、地域活性化に寄与して、子ども達の安全安心が担保出来る環境の良い場所として今の計画地に決定した。

【佐瀬】環境を考えるならば西風の強いこの土地よりも千里小学校の近隣も利便性等条件が同じで西風の影響も受けず文教地区として考えられるのではないか。

【答弁】西側に決定したのは二割が用途地域に指定されていないくほ場整備も実施されていない、西風については承知しているが環境については良好であると選定に至った。

【佐瀬】作付けを地権者自らと、耕作者が別な所が有るが、購入費用は両方に支払うのか。

【答弁】買収費用ですが、基本的には地権者に支払うものと思っている。

【佐瀬】少子化が進むこれから小中学校の統合、廃校が考えられるがその建物を使つての子ども園は考えられないのか。

【答弁】既存の校舎の再利用は対象年齢利用形態の違い、老朽化などからの改修費用が多くなると思われるので難しいと思っている。

モーグルワールドカップの来年からの開催について

【佐瀬】放射能風評被害払拭に関して国内外に元氣な福島をアピール出来る格好の大会だが当町の考えは。

【答弁】全日本スキー連盟から正式の開催要請が来た、再来年のインターハイのリハーサル大会としてなら受けたいが財源が無いので人的支援ならば応援すると返事をした。

【佐瀬】この大会は開催ホテル一社の利益の様に見えるのだからこの冬以降のスキー客、スキー修学旅行の誘客、インターハイへの影響など経済効果は当町だけでは無く県内レベルの問題なのだが本県と当町は予算を付けないと云う事についてどう考えるのか。

【答弁】県の事については回答しない。当町も人的支援だけの協力ならば受けたいと思っている。

【その他の質問】
当町のホームページについて。
磐梯山周辺地熱発電事業検討連絡協議会について。

【答弁】町内にいろいろな団体機関があるので、目的に合致した利用等、又一緒に調査試験等もやっていければと思う。町内の学校への利用促進についても、教育委員会を通じて行いたい。

【金本】地場産品の拡大と学校給食による地産地消の拡大の現状は。更に試作品等を町民と検討する冬期間のセンター活用等はどうなのか。

【答弁】平成22年度は食材購入支出割合で16・7%有りましたが、平成23年度は原発事故の影響で地元農産物離れが起き2・5%と減少しています。今後、活用法も含め従来の取り組みを拡大できるようにしたい。



地域農業活性化センター
「アグリいな」

【その他の質問】

耕作放棄地について。
資源ゴミのリサイクル状況について。



金本 久美子 議員

Q. 地域農業活性化センターの今年度の取組状況は。
A. 今後町内のいろいろな団体、さらに小中学校も含め利用促進について進めていきたい。

鶴峰住宅五棟目の発注について

【金本】町民目線での政策展開を希望していたわけですが、他四棟の坪単価78万円に比較してどのような検討が加えられたのか。相違点はなにか。また家賃はどうなるのか。

【答弁】坪単価にして約68万円となる見込みです。各工事で変更し具体的なものとして床材をヒノキから天然木複合フローリングに、屋根材はフッ素樹脂ガルバリウム鋼材に、壁や天井仕上げ材を珪藻土からクロス張りなどです。家賃は他四棟と同様の算定基準になります。

駅前活性化対策についてその進捗状況は

【金本】平成26年道の駅、平成27年川西子ども園の開園をふまえ、会津バスの買収を含め、今後猪苗代駅周辺をどのようなようにしていくのか、早急に対策を考えなければと思うが、町長の考えをお聞きます。

【答弁】猪苗代営業所跡地については、会津バスより「猪苗代町で購入していただき、行政目的で利用していたきたい。」との意向があり、町としても秩序ある土地利用を維

地域農業活性化センターの今年度の取り組み状況は

【金本】現在一部は耕作されているが、荒地になっている箇所がある。どのような実態なのかお聞きます。

【答弁】一部は調査試験関係です。町民対象にした「町民農園」は募集30区画に対し8区画の利用。「野菜作り講習会」については前期・後期合わせて募集32組に対し26組の参加となっています。「農業体験用水田」は町外の子ども達を対象としており、未利用地についてはすぐに作付けできる状態でないため、計画的に復田作業を進めているところです。

【金本】調査試験に関しても町内の様々な組織を巻き込んで協議し、実験ほ場として活用する等、また猪苗代の教育でも体験学習として稲作作りをし、他校との同一作業による交流等も考えられるのではないかと思います。見解をお聞きます。



長澤 操 議員

Q. 除染の取組みと、除染費用の公費負担について問う。

A. 計画にそって実施し、安心の確保に努めている。

【長澤】除染作業の現状と除染土壌等の管理保管について問う。

【答弁】学校等の公共施設については9月に完了予定。各行政区については、要望のある6地域において、補助申請をしながら順次対応している。

保管管理であります。都市公園については、土嚢袋に詰め遮水性のフレコンバックに入れ亀ヶ城公園の敷地内に保管。教育施設、行政区については、地区のご理解の元保管場所に遮水シートで覆い保管。月に2回線量の測定と保管状況を確認している。

【長澤】出荷制限されている川魚等の対応について伺う。

【答弁】現在では対応が難しく、県のモニタリング調査等の動向に注視している。漁業組合の損害賠償請求で対応して頂いている。

【長澤】農産物の放射線軽減肥料の散布と費用の負担について問う。

【答弁】水稲・畑作分で、カリウムとゼオライトの成分を含む「ふくさぼ」を約102トン、ケイ酸カリ約36トン、塩化カリ174トンを散布と把握している。

町とJAあいつ合計で50%から70%の補助を予定しているが、全額損害賠償と合わせ、農家負担がないようにしたい。

ジオパークの推進による観光振興について

【長澤】ジオパーク認定にあたり、町の取組みと3町村・県・関係機関の連携について伺う。

【答弁】現在「世界ジオパーク」の認定に向け、説明看板の設置、小中高や町内等における「出前講座」の開催、「磐梯山ジオパークフォーラム」の開催、「ジオガイド養成事業」「ガイドマップ作成」に取り組んでいる。「磐梯山ジオパーク協議会」の中で、国立公園法の指導や財政面での支援を頂きながら、一層の連携を図り事業を進めていきます。

高齢者福祉サービスについて

【長澤】単位老人クラブの減少原因は何か伺う。

【答弁】10年前に比較し、クラブ数、会員数とも半減している。減少要因としては、趣味やライフスタイル

の多様化により関心の希薄や事務負担が推察される。簡素化に努めています。

【長澤】敬老祝い金の今後の見直しについて問う。

【答弁】対象者が年々増加傾向にあり、他自治体も参考にしながら制度全体の見直しを行いたい。

【長澤】「敬老の集い」の内容の充実と見直し等について見解を伺う。

【答弁】町民の方による手作りの中で開催してきました。今後は会場も含めた開催方法や内容の見直しを行いたい。

【長澤】乗合タクシーと路線バス利用者との公平性を図る意味からも、料金の負担の軽減と利便性の向上に努めるべきと思うが見解を伺う。

【答弁】色々検討してきたが、事業者の事務が煩雑になり対応しきれない。路線の高森便については乗車率の関係もあるが、路線を変えてみるなど、ご期待に添えるよう検討していきたい。

道の駅構想は慎重にやってもえなないか

【佐藤】今からでも止めることは出来ないか。

【答弁】観光と農商工連携による拠点施設としての道の駅を整備してまいりたい。

【佐藤】農産物や地場産品等の販売は、新しく施設を作るのではなく今ある施設をうまく活かして民活にまかせ、また、民活をバックアップして行くのが行政の役割と思うが。

【答弁】基本的には自然環境を活かし施策の成果をあげる最小限の建物で行き、ニーズが高まれば拡張することも含め次の年を考えるとというスタンスで行きたい。

【佐藤】当町の宝である優良田園を潰してまでも道の駅を作る意義は。

【答弁】経済活動と環境の調和はいつまでも平行線の部分もあり交わらないが、近づけることが行政の責任であり、経済活動を見捨てるわけにもいかない。今後も色々とご意見をいただきながら、最終的には決断をさせていただきたい。

【佐藤】町長の選挙公約だから民意は問うたというが、一度町民の意識調査をやっていただけないか。

【答弁】町長の選挙公約という話を全面に出しているわけではなく、基本計画策定部会に参加されている委員からの意見や候補地周辺地区の方々のご意見を頂いております。そのため、1万6千人を対象とした意識調査は現在考えていない。

【佐藤】今、道の駅を作れば近年の経済低迷や原発事故による風評被害により大打撃を受けている民間事業の方々に対する民業圧迫にほかならないのではないか。

【答弁】民業を圧迫する考えではないが負債を背負ってはいけないし、利潤も上げ民業も圧迫しない方向が見い出せないか考えております。

【佐藤】人工物より自然環境を全面に活かす方向へは行かないのか、また、今までじつくりと当町の景色を眺められた事はあるか。そして魅力や特徴はどう思われているか。

【答弁】魅力は磐梯山や猪苗代湖と思っている。立ち止まらないまでも猪苗代のすばらしい景観は承知している。

町内の各施設・各名所への案内標識について

【佐藤】他所から来られた人から案内が分かりづらいという声を聞くが案内標識の現状は。

【答弁】平成15年度から18年度にかけて38基のサインといわれる案内標識を整備してきましたが、必要があれば関係機関と協議のうえ、より分かりやすいものとしていきたい。

【佐藤】来町される人の立場に立つため細かい心配りのある案内を。

【答弁】関係機関と協議しながら検討してまいりたいと考えている。

当町におけるシンボルの取り組みについて

【佐藤】町の木、花、鳥が現在のように指定された経緯と取組み状況は。

【答弁】町民憲章の制定と共に昭和49年11月3日記念式典において指定したものであり、サギソウは町内の一部の湿原で自生しております。文化財として保護しております。今後とも町の花として親しみをもちてより一層の普及活動に努めてまいります。

佐藤 悦夫 議員

Q. 当町の宝である優良田園を潰してまでも道の駅を作る意義は。止める事は出来ないか。

A. 恵まれた自然環境を無駄にすることなく、細心の注意を払い進めて行く。



委員会レポート

文教厚生常任委員会

行政視察：長野県小布施町・御代田町

御代田町は、自然環境が良く、地震や台風等の災害が少ない町で、平成21年度から3歳児に一律2万円の子育て応援金を支給し、子育てしやすい町として長野県内でトップクラスの出生率がある。また、近年人口が増加しており、健康で暮らせる町づくりとして保健師と管

子育て支援と複合文化施設「エコールみよた」

(長野県御代田町)



図書館運営について学ぶ委員

図書館は、いかに多くの町民に愛され、利用してもらうのが運営をいかにするのが肝要である。また、子育て支援は、医療や就業先など地域の環境に大きく依存するが、小布施町、御代田町とも「おもてなしの心」を基本にしたまちづくりがみられ、当町でもより一層「おもてなしの心」によるまちづくりを進める必要があることで、委員全員一致した。

理養士を以前より2倍採用し、特定健診の受診率も高い。複合文化施設「エコールみよた」は平成15年4月に開館し、図書館、博物館、ホール、会議室を備えた施設で、施設を支える約670名のボランティアの力が大きく、館内整備、読み聞かせ、イベントの企画や実施、フロアサポートなどの協力を得ており、図書館はお母さんたちの集まる場ともなっている。

〈意見〉

議会広報編集特別委員会

研修：全国町村議会広報研修会

次に、長岡光弘氏からの「広報紙におけるレイアウト表現の基本」の演題では、読まれるための広報誌にするために「一般情報誌などのレイアウトを行うこと。常に住民の視点に立ち、情報のタイムリー性や分かりや

7月30日、31日の2日間、全国町村議会議長会主催の第76回町村議会広報研修会が東京のシーンバツハ・サポー会館で開かれ、広報特別委員全員で参加研修してきました。

〈研修1日目〉

議会広報紙向上のため、「伝わる。わかりやすい文章を書く」という演題で田村仁氏を講師に迎え、「心をつかむ文章は、目的を達成できる文章だ。」ということを学びました。

10文字以下は無意識に読んでしまうので、短文で作る技術が必要なことや、短文でまとめるほど読み手はわかりやすいということも教えていただきました。また、タイトルはリード文を読ませる為にあるので、タイトルで心をつかむことが重要であることや、伝えたいことではなく、自分が読者として聞きたいことを書くともっと読みたくなる文章になることも学びました。

この日は各町村の議会だよりを元にクリニックが行われ、それぞれの良い点、改善点について説明を受けました。

〈研修2日目〉

この日は各町村の議会だよりを元にクリニックが行われ、それぞれの良い点、改善点について説明を受けました。

編集員一同、研修内容をこれから「議会だより」の編集に活かしてまいります。



議会広報の編集について学ぶ委員

総務常任委員会

行政視察：長崎県川棚町・島原市

議会活性化への取り組み

(長崎県川棚町)

政治倫理条例調査特別委員会では、議員の倫理条例について調査を行っている。議会活性化調査特別委員会においては、議会基本条例の検討、町民への情報提供と直接町民の声を聞く機会のため議会報告会の開催、定例会の早期周知の取り組み、全員協議会において視察研修の報告や委員会報告の在り方について検討、年に1度の議場解放に取り組んでいる。

〈意見〉

猪苗代町議会においても、議会運営委員会や全員協議会等で検討を行い議会活性化を図るべきと考える。

島原半島ジオパークと火山防災について

(長崎県島原市)

平成20年2月島原半島ジオパーク推進連絡協議会が設立され、平成21年8月世界ジオパークネットワーク加盟が承認され、火山活動や災害の歴史、自然の恵みである温泉や湧水をジオサイトとして保存と活用を図っている。平成24年5月には、ジオパーク国際ユネスコ会議が開催された。次に、雲仙普賢岳噴火災害の経過と、地域防災計画について説明を受けた



土石流被災家屋保存公園にて

火山現象については、国・大学・県・市が設置している各種の観測施設を基に、噴火予報と噴火警報に区別し、これを5段階に分けた噴火警報レベルを設置している。また、歴史的経過から、眉山崩壊に備えた避難計画を個別に計画している。

〈意見〉

磐梯山の火山防災マップについて、雲仙普賢岳噴火のような火砕流と土石流災害は想像を絶する恐ろしいものであり、この災害の経過等を踏まえ、専門学者の意見を参考に避難計画を策定され、防災対策の一つとしては火山砂防ダムの設置が必要である。

経済建設常任委員会

行政視察：北海道滝川市・苫小牧市

道の駅 たきかわ

(北海道滝川市)

札幌から旭川に向かう国道12号線沿いにあり床面積は839㎡、駐車台数148台。入場者数は年72万人ほど。運営は滝川市の商工会、農業者が任意の管理組合を設置し、市から指定管理を受けて管理運営をしている。イベント開催やレストラン等のテナント料、組合員の共益金の負担金などで運営費を賄い市からの委託料はない。農産物の売上は7〜8千万あり、総売上は2億円を目標としている。組合員数は150軒。道の駅単独で定期的にフリーマーケットを開催している。その他旅行代理店との契約で団体旅行などの昼食弁当をレストランで作り提供している。

道の駅

ウトナイ湖 (北海道苫小牧市)

国道36号線沿いにあり、新千歳空港まで15分と多くの空港利用客の通る交通の要所に位置する。建物の床面積1,054㎡、駐車場105台。運営は地区の企業、個人からの出資で設立した(株)植苗・美沢プロジェクトに指定管理料なしで委託している。直売所を除いた売上は1億8千万円で黒字経営。利用客は年70万人ほど。



道の駅たきかわ農産物販売の様子

〈意見〉

①場所がわかりやすく、入りやすいことが何より重要である。
②運営のコンセプトを明確にし建物も景観も他の道の駅にない特色をだす。
③地域の特産品、農産物は良質な物を提供し、地元生産者がアイデアを出しかわることが大切である。

④町の文化や情報を展示、発信し、年間をとおしてイベント等を開催し、町民と町外からの利用者が交流できる場所であること。

⑤隣接する市町村と連携し広域的な情報発信と緊急時の対応拠点としての整備等が必要。

町民の声



猪苗代地区
本多トミオさん

月給

私は、昭和9年3月福島女子師範学校を卒業し、教員となりました。当時月給四十円、男子師範卒は月給四十二円でした。

この給料も毎月決まった日に頂けるのではなく、地方の財政によってはまちまちでした。ある月は、給料が頂けないかと思えば、又一律に「今日は千円支給する」などということもありました。厳しい状況に変わりはなかったです。
ある年配の先生が「こんな焼き石に水だ」とおっ

しゃいました。

この話を当時一箕村（現在会津若松市一箕町）の村役をしていた父に言うところだべ」と一言。

現在、公務員はどんな月も定まったお給料が頂ける。こんな当たり前のことが幸せと思いたい。生活設計も立てられるのだから。

毎日普通に暮らせることが、どれ程幸せなのか。厳しい生活をしてきた者ほど人の心を大事にします。

昔とは様々に違う現在、さらに暮らしにくい世の中。ただいつの時代も思いは同じもの。一日一日を精一杯生きていきましよう。

※97歳の本多トミオ先生にとつて回想記の中でも「教職生活が生涯の全てであったかの如くである」と書いている。

議会の行事

9月28日会津地方振興局長の石井浩氏を講師に迎え、「会津を元気に～会津からはじめよう～」と題した講演を道の駅にしあいづ交流物産館において聴講しました。



会津耶麻町村議会議員研修会

傍聴においで下さい

**12月議会は
12月3日(月曜日)
開会予定です。**

【一般質問は6日(木)・7日(金) 予定です】

※質問者・質問内容については12月1日以降に町のホームページ(議会事務局)に掲載します。また各公共施設にチラシを掲示しますのでご覧ください。

掲示施設名

- ・役場町民ホール
- ・学びいな
- ・カメリーナ
- ・町立猪苗代病院
- ・老人福祉センター
- ・如風庵
- ・まちのえき まるしめ

編集後記

今年は雨が降らず九月初旬まで畑に水を運ぶのが日課になった暑い夏。

秋祭りのお囃子に合わせてミンミン蝉が歌っている。ここ猪苗代は涼しい高原のはずなのに気候がおかしい。議会だよりを読んで頂いている頃は稲刈りで忙しい時期だと思います。

今年のお米は全数全袋放射能検査が県内統一の基準値のもと始まります。

猪苗代では基準値を低く設定・測定して出荷が出来れば差別化して販売も考えられると思うのですが……。

10月21日はオリオン座流星群が夜半10時頃に東の空に現れます。たくさん流れ星の下みんで猪苗代町の復興を願ってみませんか。

各々が夢を持ち猪苗代で生きていく。そう、私達は猪苗代町のプレイヤー「チーム猪苗代」の一員なのです。

佐瀬 真

議会広報編集特別委員会

委員長	渡部 博幸
副委員長	金本 久美子
委員	佐瀬 真
委員	細貝 功人
委員	佐藤 悦夫
委員	佐藤 英一郎
委員	長澤 操
委員	鈴木 武喜